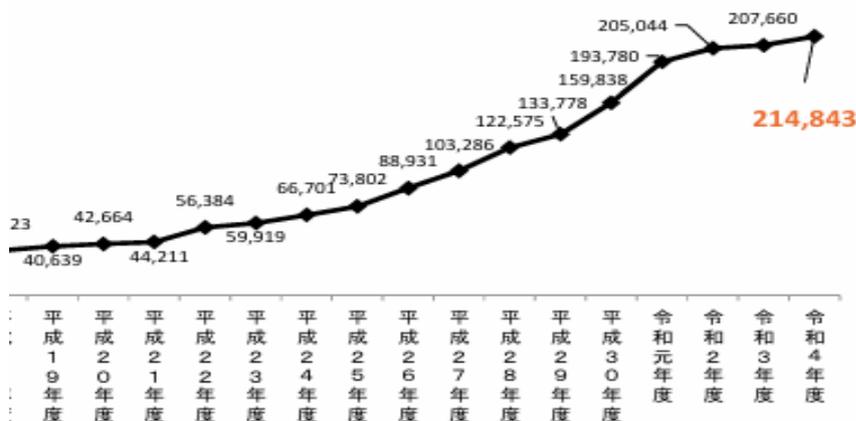


第16回アカデミックフェア

児童虐待の現状と虐待しない子育て

児童虐待が年々増加しているのを知っていますか？

児童虐待とは、親や教育者などが子どもに対して、殴る、蹴るなどの身体的虐待や、心理的虐待、性的虐待、ネグレクトを行うことを言います。



出典；こども家庭庁 令和4年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数

このグラフは児童相談所の児童虐待相談対応件数を表しています。グラフの通り、年々児童虐待が増加していることがわかります。

児童虐待を防ぐには？

児童虐待はこれからも増加してくと考えられます。

このような現状に対して、児童虐待を未然に防ぐためにはどのような対策が必要なのかを考えていきます。

空き家の現状と生駒市の取り組みについて

【空き家が増加することで発生するリスク】

倒壊や敷地内の不法投棄、ネズミ等の発生、火災、断水、不法侵入、犯罪に悪用

【全国の現状と考察】

・ 14%の 900 万 1600 戸が空き家(2023 年)

・ 空き家所有者実態調査報告書(2018 年)

⇒社会問題である少子高齢化の影響が顕著に表れている。また、空き家の活用法や所有者の負担を軽減する取り組みが必要

【生駒市に興味を持った理由】

全国初の空き家対策『いこま空き家流通プラットフォームの設立』を試み、成果を出した。

【いこま空き家流通プラットフォームの背景】

2016 年:生駒市空き家等実態調査を実施。

2017 年:5 万 1,140 棟中、2.8%を占める 1,444 棟の空き家が存在

課題解決のため、本プラットフォームが設立。

【本プラットフォームの仕組み】

空き家所有者と買い手を空き家流通プラットフォームで仲介。空き家所有者は物件を登録。利用希望者は条件や希望を登録。プラットフォームが双方の条件を照合し、マッチングを実施。プラットフォームには幅広い分野の専門家が所属。空き家の現状調査、改修工事のアドバイスを行い、サポート。もし、マッチングが成功した場合には、売買・賃貸契約を締結し、契約開始。

【本プラットフォームの課題】

高齢者：住宅の相続や売買の仕方について具体的な方法を知らないため、生駒市の支援制度を周知していくこと。

【結論】

近年、少子高齢化の増加により空き家は急増している。生駒市の買い手と売り手をマッチングさせ、いこま空き家流通プラットフォームで家の売却から成約までをワンストップでできる部分が画期的であると感じた。しかしながら、途中で契約が白紙になっていた事例や高齢者の本プラットフォームの知名度が今一つだった点が今後の課題であると考えた。そして、今後も空き家問題について調査し、その解決策を探求していきたい。